

# 平成25年度予算見積調書(2月補正予算)

課室名：生徒指導課  
 担当名：非行・中退防止担当  
 内線：6744

(単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
B41	定時制高校生自立支援プログラム事業			一般会計	教育費	教育総務費	教育連絡調整費	非行防止対策費	
事業期間	平成24年度～平成27年度	根拠法令	なし				戦略項目 06 時代に応え未来を拓く人材育成		
							分野施策 020102 子どもたちの豊かな心の育成と非行防止・立ち直りの支援		
<b>1 事業の概要</b> 経済事情の悪化などにより、定時制高校の在籍者が増え、定時制高校における中途退学者は増加傾向にある。そのため、福祉や教育の現場で豊富な経験を積んだ方々やNPO、さらには地域の方々と学校が連携し、生徒に自立する力を身に付けさせ、中途退学を防止するとともに、ひいてはニート・フリーターの予防を図る。  (1) 外部の力を生かした中途退学防止 432千円 (2) 生徒を学校へ導くための環境整備 160千円 (3) 自立支援に係る取組の普及・啓発 6千円				<b>5 事業説明</b> (1) 事業内容 ア 外部の力を生かした中途退学防止 1,650千円 地元企業や商店と連携した自立のための体験活動やNPOと連携した自立のための講座等を実施する。 イ 生徒を学校へ導くための環境整備 6,302千円 スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーをモデル校2校に配置し、生徒を取り巻く環境改善や生徒、保護者の心のケアを行う。 ウ 自立支援に係る取組の普及・啓発 77千円 中途退学防止に係る意見交換会を開催し、効果のある取組について情報共有するとともに、効果的な取組について、全県に普及する。 (2) 事業計画 ア プログラム事業推進担当教諭が、支援企業等を発掘し、協力者を募り、就労体験やボランティア活動など、生徒の自立に結びつく体験活動を企画する。 イ スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、関係機関等と連携し、個々の生徒に必要な支援を行う。 (3) 事業効果 ア 民間と連携した就労体験や、ボランティア体験などをとおして、生徒に自立する力を獲得させたり、スクールソーシャルワーカーによる福祉的支援やスクールカウンセラーによる心理的支援などにより、中途退学の防止やニート・フリーターの防止につなげる。 イ 公立高校1年生の中途退学率及び中途退学者数を減少することができる。 平成23年度：3.1%(1,071人) 平成28年度：2.7%(1,000人以下)(目標) 中途退学者数 平成20年度：4.6%(1,672人) 平成21年度：4.2%(1,508人) 平成22年度：3.4%(1,261人) (4) 県民・民間活力、職員のマンパワーの活用、他団体との連携状況 ア NPOと連携した自立のための講義や保護者講演会等を実施。 イ 地元企業と連携した就労体験活動を実施。 (5) 補正予算の概要 ア 外部の力を生かした中途退学防止：消耗品費等の節約による減額。 イ 生徒を学校へ導くための環境整備：非常勤職員の出張回数が当初見込みを下回ったことによる減額。 ウ 自立支援に係る取組の普及・啓発：旅費の節約による減額。					
<b>2 事業主体及び負担区分</b> (1)(3)(県10/10) (2)(国1/3・県2/3)									
<b>3 地方財政措置の状況</b> なし									
<b>4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員</b> 9,500千円×0.5人=4,750千円									
予算額		財 源 内 訳						一般財源	補正後の 予算額
		国庫支出金							
決定額	598	53					545	7,431	
現計額	8,029	2,100					5,929		